あなたと博物館

松本市立博物館ニュース　No.188　2013.9.1

開智学校と、博物館の前身
明治三十七、八年戦役紀念館

学都松本　学びの9月・学びでつながる わたしたち

学都松本のシンボルのひとつ・開智学校は今年、開校140周年を迎えました。

市民の学びとともに歩む博物館　今年9月21日で、松本市「博物館の日」は15回目、博物館は開館107周年を迎えます。

学びの9月

このひと月、松本市立博物館と14分館は学びにかかわることがいっぱいあります。
9月7日(土)、8日(日)は第2回学都松本フォーラムです。
「学びの9月」はあれか、これか、ではなく、あれも、これも、ぜーんぶ、皆さん学びを楽しんでください。

もくじ

博物館TOPICS ◇ 開智学校開校140周年記念事業 …… 2
誌上博物館 ◇ 記念展「開智学校にみる進取の気風」より …… 3
誌上博物館 ◇ 発掘された日本列島2013 新発見考古速報　見どころ紹介 … 4-5
誌上博物館 ◇ 企画展「工女宿宝来屋のくらし～山里の明治・大正時代～」… 6
誌上博物館 ◇ 窪田空穂記念館企画展「空穂とふるさと」… 7
誌上博物館 ◇ 國學院大學 ～学びへの誘い～
祭礼絵巻にみる日本のこころ … 7
ガイドコーナーはんてんぼく …… 8

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

開智学校開校140周年記念事業

今年は、松本に第一番小学開智学校（開智小学校の前身）が開校して140周年になります。学制発布の翌年、明治6年（1873）に誕生した開智学校は、開校以来、松本の人々の学びの中核となってきました。現在も、その校舎は学都松本のシンボルとして多くの人に親しまれています。

この140周年を記念して、今年度は様々な事業を開催しています。4～5月には、昨年度に金沢市の方から寄贈いただいた明治時代の掛図を紹介する、企画展「明治の教育掛図」を開催しました。平成20年に金沢市と松本市は、文化・観光交流都市協定を締結しましたが、その一助となるようにとの思いがこの掛図には込められています。

寄贈された掛図24点は、いずれも「明治7年6月改定」と書かれています。掛図が登場したのが明治6年といわれており、寄贈資料は良好な状態を保った初期の教育掛図であり、非常に貴重な資料です。明治9年に建築された旧開智学校の校舎と同時代を生きた教育掛図は、当時の教室の雰囲気を感じさせてくれました。

8月3日（土）から9月8日（日）までは、まる博連携事業「戦争と平和展」の一環として、企画展「戦時下の学校―子ども・大人・地域―」を開催しています。開智小学校が開智国民学校と呼ばれていた時代に、開智を取り巻く人々がどのような境遇にいたかを、開智に残る資料をもとに紹介しています。

開智国民学校の日誌には、国の方針のもと、戦時体制に組み込まれていく学校の様子が細かく記録されています。

日々の授業が勤労動員や防空壕掘りに変わるなど、生産力の一部とされていった子どもたち。自らも戦地や勤労動員へと召集される中、軍部の要請により子どもたちを軍隊へと導く役割を担った教師をはじめとする大人たち。拡大する大政翼賛会や愛国婦人会などへの加入や、消防訓練や防空訓練などに人びとが従事した地域。三者それぞれの様子から、戦時下の開智学校の姿に迫っています。

戦時下の学校展が終了すると、すぐに記念展「開智学校にみる進取の気風―教育権令永山盛輝と棟梁立石清重―」が始まります。開智学校を語る際に、欠かすことのできない2人の役割を改めて紹介する記念展です。松本市教育委員会が推進している“学びの9月”に合わせて、松本の学びを支えてきた開智学校の創立に大きく関わった2人を取り上げます。展示内容については、次ページで詳しく紹介します。

140周年記念展の最後を飾るのは、年が明けた2月1日（土）から始まる、記念展「学都松本の礎―すべては開智学校からはじまった―」です。こちらは、松本市立博物館で行う藩学崇教館設立220周年記念展「江戸の学び―学都松本の礎となった崇教館」との連携企画として開催します。ともに学都松本の礎となった崇教館と開智学校ですが、旧開智学校の展示では、現在の学都松本を支えている様々な施設が開智学校から誕生していった歴史を紹介します。

開智国民学校の児童図画

皆さんが普段から利用している、松本市立博物館や松本市中央図書館、他にも蟻ヶ崎高校や美須々丘高校、松本幼稚園や盲学校、信大医学部など、現在も私たちの身近にあり学都松本を形成する施設の多くは、開智学校の内部や付属施設として作られたものです。なぜ開智の中に誕生することになったのか、その背景にも迫りながら、開智学校にあった頃の各施設の様子を紹介する準備を進めています。他にも、明治の授業などの各種講座も行いますが、元学校の教育博物館という性格を活かした学びの事業を開催していきます。

この1年を通して、開智学校を中心とする学びの歴史をお伝えすることで、学都松本を改めて見つめ直す機会となれば幸いです。

（松本市立博物館　学芸員／遠藤正教）

重文旧開智学校 Tel.0263-32-5725

記念展「開智学校にみる進取の気風」より

重文旧開智学校では、9月21日（土）から開智学校開校140周年記念展「開智学校にみる進取の気風—教育権令永山盛輝と棟梁立石清重—」が始まります。140周年記念事業の中核の一つとなる展示で、今回は永山盛輝と立石清重にスポットを当てます。筑摩県権令と大工棟梁、立場の異なる2人ですが、開智学校開校に傾けた情熱とその功績は互いに引けを取りません。

江戸時代は勉学も身分によって差別化されていましたが、明治時代になると身分に関係なく皆が同じ教育を受けることができるようになりました。開智学校は学制発布1年後の明治6年（1873）に、藩校崇教館の流れを継いで開校しました。最初は、松本藩主戸田家の菩提寺であった全久院の建物を利用しますが、明治9年に現在も残る白亜の擬洋風建築の校舎になります。

開智学校開校に尽力した永山と立石はどんな人物だったのでしょうか。

永山盛輝は、薩摩藩士の長男として、文政9年（1826）に現在の鹿児島市に誕生しました。明治維新の流れに乗り、大政奉還後は大久保利通や西郷隆盛と行動を共にしています。

明治6年に筑摩県権令となると、特に教育施策に力を入れ、「教育権令」と呼ばれるようになります。校舎の新築にも力を入れ、住民をまとめ上げ、校舎建築のために多額の寄付金を集めました。

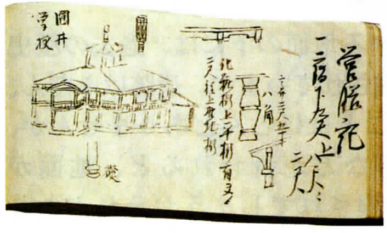
説諭要略

筑摩県権令
永山盛輝

立石清重は、文政12年6月に松本に生まれました。地元の代表的な大工棟梁として活躍し、松本裁判所や長野県会議事堂など多くの建設に携わった人です。立石は、筆まめな人物で、工事の詳細な記録や参考にした建物のスケッチを多く残しています。

次に、2人の進取の気風＝自ら進んで物事を行う気風とはどんなものだったのかを紹介したいと思います。

永山は、筑摩県着任後すぐに教育行政を進めていきます。「学校創立告諭書」を発して、「国家ノ富強ヲ謀ルハ人民ノ智力ヲ磨励スルニ有之」と述べ、学校創設を強く訴えました。中央政府が学制を発布する5カ月前のことです。こうした強い思いが開智学校開校につながります。また、開校後も児童を連れて県内中を歩き、各地で模擬授業を行い学校の素晴らしさを説きました。その様子が、同行した筑摩県学務掛の長尾無墨によって『説諭要略』にまとめられています。他にも、校長に東京で活躍する一流の教育者を招聘するなど、教育の質の向上に尽力します。山間の地に近代教育を導入するだけでなく、こうした知識人を厚遇した永山の見識は高く評価されています。



立石清重スケッチ画

晩年の立石清重

もう1人の功労者である立石の進取の気風はどんなものだったのでしょうか。開智学校からうかがえる進取とは、擬洋風建築を建てたことでしょう。最新の洋風建築を参考にして生み出された、和と洋が混ざり合う独特の校舎は、まさに立石の進取の気風の産物です。地元で棟梁として活躍していた立石は、洋風の建築は初めてでした。そのため、横浜や東京に上京し、洋風建築のスケッチをするなどして勉強しました。特に参考にしたのは、開成学校（東京大学の前身）と東京医学校（東大医学部の前身）と言われています。大きな建物が松本城だけであった当時、文明開化のイメージそのままの白亜の大校舎を見た人々は非常に驚いたことでしょう。また、時代を越えて見る者を優美さで圧倒するその威容は、現在も訪れる人に学びの歴史を感じさせます。これはすべて、スケッチ旅行までしてデザインを追求した立石の情熱から来ています。

このように開智学校が誕生し、現在も国の重要文化財として輝きを放つことが出来るのも、永山と立石の進取の気風のおかげといえます。記念展では、『説諭要略』や立石のスケッチ画など、2人の進取の気風を伝えてくれる資料を紹介します。

開智学校開校140周年の記念に、創立期の恩人である永山と立石の功績を改めて振り返り、学都の歴史と未来に思いを馳せてみてください。

（重文旧開智学校管理事務所）

記念展「開智学校にみる進取の気風
—教育権令永山盛輝と棟梁立石清重—」

9月21日㊏～11月24日㊐

発掘された日本列島2013 新発見考古速報
見どころ紹介

1 埋蔵文化財と考古学

私たちが生活している地面の下には、過去の歴史の痕跡が遺跡として残されています。遺跡はふだん、私たちの目にふれることはほとんどありませんが、土地開発や建設工事などが行われると、地面が削平（さくへい）されて遺跡が破壊されてしまうおそれがあります。そのため、遺跡を構成する遺構や遺物などは、文化財保護法によって「埋蔵（まいぞう）文化財」として位置づけられ、保護されています。

現在、日本には約 46 万か所の遺跡があり、毎年 8,000 件近くの発掘調査が行われ、膨大な量の遺物（土器・石器・金属製品・木製品など）が出土しています。これらの出土品は、貴重な国民の共有財産として博物館や研究機関で大切に保存するとともに、できるだけ市民に公開するなどの活用が求められています。

2 「発掘された日本列島 2013」展

文化庁では、これまで市民が国内の発掘調査の成果にふれる機会がほとんどなかったため、平成 7 年度から毎年、国内の数か所の博物館を巡回しながら、全国で話題を集めた発掘調査の成果を紹介する「発掘された日本列島―新発見考古速報―」展を開催しています。この展覧会は、最近の発掘調査で特に注目された出土品を展示しながら、多くの人々が埋蔵文化財に親しみ、その保護の重要性に関する理解を深めることを目的としています。

今年度の「発掘された日本列島 2013」では、全国の特に注目を集めた発掘調査資料を中心に、2 つの特集展示とあわせて、32 遺跡から出土した約 500 点の出土品を一堂に集めて展示します。

3 展示の見どころ

◆中核展　発掘された日本列島 2013

日本各地で行われた発掘調査のうち、北海道から鹿児島県の 17 遺跡で出土した、旧石器時代～近世の遺物約 360 点を速報展示します。

いずれも、近年注目された話題の出土品ばかりですが、その中からいくつか紹介してみましょう。

茨城県の上境旭台（かみざかいあさひだい）貝塚は、霞ヶ浦に近い縄文時代後期～晩期の貝塚と、それを形成した人びとの集落遺跡です。ヤマトシジミが約 95％を占める貝層からは、ほぼ完全な形の手のひらサイズの土偶 1 点が出土しました。上境旭台貝塚からは約 90 点の土偶が出土していますが、顔がミミズクに似ていることから名付けられたこのミミズク土偶は例の少ない優品です。

上境旭台貝塚（茨城県）　ミミズク土偶

東京都の緑川東遺跡は、多摩川中流域の左岸にある縄文時代早期から後期にかけての集落遺跡です。このうち縄文時代中期末から後期初頭の、床に石を敷き詰めた敷石遺構から、無傷の大型石棒が 4 本並んで出土しました。石棒は、土偶と並んで縄文時代のまつりに使用された祭祀の用具です。この遺跡の 4 本の石棒は、いずれも長さ 1 メートル以上の大型品ですが、完形の石棒がこのように意図的に並んで出土することは、全国的にも例がありません。

このほかにも、日本各地の遺跡から出土した考古資料を、実際の出土品と写真パネルで、博物館の展示会場いっぱいに飾る予定です。

緑川東遺跡（東京都）　敷石遺構と4本の石棒

◆特集　陵墓の埴輪

歴代の天皇や皇室の祖先の墓として宮内庁が管理する、陵墓から出土した様々な埴輪を、宮内庁の共催により展示します。

わが国を代表する古墳群（奈良県大和古墳群・佐紀古墳群・馬見古墳群、大阪府古市古墳群・百舌鳥古墳群、宮崎県西都原古墳群）にある陵墓から出土した代表的な埴輪が展示されますが、これだけの埴輪が全国巡回するのは初めてになります。

仁徳天皇陵古墳（大阪府　百舌鳥古墳群）

なかでも、全長486m、国内最大の前方後円墳である仁徳天皇陵古墳（大阪府）から出土した人物埴輪の頭部や馬形埴輪、卑弥呼の墓説が唱えられている箸墓古墳（奈良県）の壷形埴輪、墓山古墳（大阪府）の弓矢の矢を入れる容器（靫）の埴輪など、いずれも選りすぐりの13点が展示されます。

靫形埴輪（大阪府 墓山古墳）

◆特集　東日本大震災の復興と埋蔵文化財保護

東日本大震災で被災した岩手・宮城・福島の３県で行われている復興事業に伴う遺跡の発掘調査成果を紹介します。縄文時代から平安時代までの７遺跡と、伊達政宗が慶長５年（1600）から青葉山に築いた仙台城跡（国史跡）の発掘調査で出土した約130点を展示します。

個性豊かな東北の地域性や歴史を知っていただくとともに、震災に対する理解を深める機会となれば幸いです。

◆地域展「速報 発掘された松本平」

巡回展を開催する各館では、地元の発掘成果を紹介する「地域展」が開催されます。

松本会場では、昨年の発掘調査で注目された松本城大手門枡形跡から出土した瓦、今夏の調査で確認されたばかりの、弘法山古墳を造営した集団の集落と考えられる出川西遺跡の発掘成果を速報展示します。また、最近になって岐阜県飛騨市の寿楽寺廃寺と同じ版型を使って製作されたことが判明した松本平最古の寺院－安曇野市明科廃寺の瓦を紹介します。

さらに、平成 23 年度に 15 か年にわたる環境整備事業が完了し、平出遺跡公園として親しまれている平出遺跡（国史跡）の縄文土器の優品などを紹介する予定です。

4 博物館連携事業

「発掘された日本列島 2013」展に関連して、松本市立考古博物館と塩尻市立平出博物館が連携した展覧会が開催されます。これは塩尻・松本の両市にまたがって流れる田川流域に焦点を当て、「原始・古代の祈り」をテーマに、2 館が所蔵する考古資料を相互に貸出して各会場で展示を行います。平出博物館では縄文時代、松本市立考古博物館では弥生時代を担当し、各館が原始・古代の祈りの世界を紹介します。

5 おわりに

大学などの研究機関が実施する学術調査や、開発事業に伴う緊急発掘調査によって、日々、日本の歴史の解明につながる新しい発見が地面の下からなされています。この秋は、昼間は博物館で日本の歴史を解明する最前線の調査成果にふれながら、秋の夜長は古代へのロマンに思いを馳せてみるのはいかがでしょうか。

（課長補佐／関沢　聡）

発掘された日本列島2013

松本市・塩尻市博物館連携事業
「田川流域の原始・古代 祈りの世界」
［縄文時代］塩尻市立平出博物館　［弥生時代］松本市立考古博物館

9月21日㊏～11月4日㊊

松本市歴史の里 Tel.0263-47-4515

企画展「工女宿宝来屋のくらし～山里の明治・大正時代～」

1 はじめに

松本市重要文化財に指定されている工女宿宝来屋は、古くから飛騨と松本を結ぶ野麦街道の要衝である野麦峠の麓、旧奈川村川浦（現在の松本市奈川）で、江戸時代の終わりから昭和の初め頃まで営業していた旅人宿で、昭和58年（1983）に歴史の里に移築されました。奈川地区には、野麦峠を越える出稼ぎ製糸工女の定宿となっていた旅人宿がいくつかあり、その1つが宝来屋で、後に工女宿と呼ばれるようになりました。

今回の展示では、宝来屋ではどういうくらしをしていたのかと、平成21年度から23年度まで行った奈川地区の聞き取り調査に視点をあてながら紹介します。

移築前の工女宿宝来屋

2 工女の歩いた道

宝来屋の前には、野麦街道が通っていました。この道は標高1,672mの野麦峠を越える道であり、積雪も多いことから難所とされていました。

江戸時代の野麦街道は、木曽の藪原経由で野麦峠を越えるルートでしたが、工女たちが活躍する明治時代には、高山→野麦峠→奈川川浦→安曇稲核→波田→松本というルートに変わりました。この道が現在よく言われる野麦街道であり、工女が通ったとされる道です。

工女たちは、この道を飛騨から歩いて３泊４日かけて、製糸工場のある諏訪地方に向かいました。

3 山里のくらし伝える道具たち

宝来屋には、当時のくらしがわかる道具が多く残されています。

その1つが食器類です。宝来屋は、旅人宿という性格上、非常に多くの彩り豊かな食器が残されています。これは、旅人に食べ物以外でも満足してもらえるよう豪華な食器類を使用したからです。

小皿

２つ目が照明器具です。日本で最初に電気が点灯したのは、明治11年（1878）ですが、電気が普及したのは都市部のみで、地方では灯油、石油を使った照明を使用しました。

吊りランプ

3つ目が食文化です。奈川地区は山に囲まれて高冷であるため、水田があまり発達せず、そばを中心とした食文化が広まっていました。工女たちが宝来屋に宿泊した明治・大正時代も同様であり、奈川地区で行った聞き取り調査の結果を紹介しながら、工女や当時の旅人の食事の内容について探ります。その他にも製糸工女の関係資料、山仕事の道具なども合わせて展示します。独特の雰囲気が漂う工女宿のたたずまいとあわせてご覧ください。

（松本市歴史の里　学芸員／宮井博樹）

企画展「工女宿宝来屋のくらし～山里の明治・大正時代～」

9月28日㊏～11月24日㊐

窪田空穂記念館 Tel.0263-48-3440

窪田空穂記念館企画展「空穂とふるさと」

故里に憑(つ)かれしわれと人嗤(ひとわら)へ郷土は
恋し亡き親のごと

ふるさと松本平への思いをこのように詠んだ窪田空穂（本名・通治）は、明治10年（1877）6月8日、東筑摩郡和田村（現・松本市和田）に生まれました。和田村小学校、松本高等小学校（開智小学校に併設）、長野県尋常中学校（後の松本中学校、現・松本深志高校）に学び、東京専門学校（現・早稲田大学）に進みます。卒業後は、新聞記者や雑誌の編集者、女子美術学校の講師等を経て、母校早稲田大学の教授となり、我が国を代表する歌人・国文学者として活躍しました。

長野県尋常中学校時代の窪田空穂（左）

文学への憧れを強く抱いた空穂は、閉鎖的な村の生活からの脱出を図り、家出してふるさとを離れましたが、少年期に受けた両親の教えや環境の感化は大きく、心の中にはふるさとがどっしりと座を占めていました。空穂がふるさとを恋しく思う気持ちは、その作品に現れており、刊行した23冊のどの歌集を開いても、両親やふるさとを詠んだ歌に出合います。また、ふるさとに題材を求めた小説や随筆も数多くあります。

うれしかりし事みな父母につながりて
長かりしかなわが少年期
ふる里に帰りたりしか野も山も青あを
として我を迎ふる
松本の市路(いちぢ)はたのし縦のみち横のみち
皆高き山見る

本企画展は、ふるさと和田村、松本中学校、亀井藤野との結婚、日本アルプス、生家への疎開、晩年のふるさとへの思い等の内容で、空穂がふるさとを詠んだ短歌、ふるさとを題材にした著作物、書簡、写真等を通して空穂の郷土愛を感じていただこうというものです。また、空穂と交流のあった同郷人として、太田水穂、中澤臨川、矢ヶ崎奇峰、川崎杜外、一條成美等を取り上げ、交流の様子や業績を紹介します。多くの皆さんのご来館をお待ちしております。

（窪田空穂記念館　館長／小松源一郎）

企画展「空穂とふるさと」
9月28日㊏～11月17日㊐

松本市時計博物館 Tel.0263-36-0969

國學院大學 ～学びへの誘い～
祭礼絵巻にみる日本のこころ

松本市時計博物館では、恒例の國學院大學との連携企画「國學院大學―学びへの誘い―」として企画展「祭礼絵巻にみる日本のこころ」を開催いたします。

伝統的な日本の祭礼は、古今を問わず、季節の訪れや地域の特色を感じさせる出来事です。その様子は、祭礼に携わる人のための記録として、また、文学作品や絵画などの芸術として、後世に伝えられています。

今回の企画展では、京の賀茂(かも)祭（葵(あおい)祭）や、祇園(ぎおん)祭、東照宮(とうしょうぐう)の祭礼など人々が関心を寄せていたいきさつがわかる祭礼をとりあげ、絵巻を中心とする品々を展示します。また、日本の祭礼の全体的な特徴や、その他の歴史的特色のある祭礼を関連する品々から紹介します。

（松本市時計博物館　学芸員／山下太一）

企画展「祭礼絵巻にみる日本のこころ」　9月21日㊏～9月29日㊐
[開館時間] 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
[会　　場] 松本市時計博物館 3階企画展示室
[料　　金] 入場無料（ただし、3階以外の常設展示は有料）

記念講演会　9月22日㊐ 午後2時～3時30分
[会　　場] 本町ホール（松本市時計博物館4階）
[講　　師] 鈴木聡子氏（國學院大學研究開発推進機構助教）
[講演題目]「神社の年中行事」
[料　　金] 入場無料
[申 込 み] 電話で時計博物館へ（☎0263-36-0969）

9月21日は第15回 松本市博物館の日 今年は9月21日(土)松本まるごと博物館全館が無料開館！

明治39年9月21日に、松本に博物館が誕生しました。この日を記念して、9月21日(土)は、博物館全館が無料開館となり、記念行事を実施します。

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

子規忌展

会　期　9月14日(土)～9月23日(月・祝)
※子規忌は9月19日(木)に行います。
会　場　松本市立博物館 1階ロビー

第4回　復活 話をきく会

日　時　9月15日(日) 午後1時30分～3時
会　場　松本市立博物館 2階講堂
聴講料　200円
講　師　平岡敏夫氏(筑波大学名誉教授　日本近代文学専攻)
演　題　「近代文学としての短歌―子規・左千夫・赤彦・茂吉等を中心に―」
申込み　電話で松本市立博物館へ

発掘された日本列島 2013

近年、特に注目されている遺跡から出土した考古資料を紹介する全国巡回展です。また、仁徳天皇陵古墳などの陵墓から出土した埴輪、東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査の成果なども特別展示します。松本地域の出土資料を紹介する地域展示も行います。

会　期　9月21日(土)～11月4日(月)
会　場　松本市立博物館 2階特別展示室
観覧料　大人300円、小・中学生100円

関連事業　講演会「発掘された日本列島2013展の見どころについて」

日　時　10月5日(土) 午後1時30分～3時30分
会　場　松本市立博物館 2階講堂
聴講料　300円
講　師　林正憲氏(文化庁文化財調査官)

考古博物館から ☎0263-86-4710

秋季企画展「田川流域の原始・古代　祈りの世界」

主　催　松本市立考古博物館
塩尻市立平出博物館
会　期　9月21日(土)～11月4日(月)
※月曜日休館(休日の場合は翌日)
会　場　松本市立考古博物館2階　第2展示室
観覧料　通常観覧料
大人個人200円(20名以上の団体150円)、
小・中学生以下無料

※松本市立博物館・考古博物館・馬場家住宅・平出博物館は観覧券の半券提示により2館目からは割引料金になります。

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

企画展「空穂とふるさと」

会　期　9月28日(土)～11月17日(日)
会　場　窪田空穂記念館
観覧料　通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)

囲碁教室

日　時　10月19日(土) 午前10時10分～正午
会　場　窪田空穂生家
対　象　小中学生
参加料　無料
指　導　日本棋院　藤澤一就8段
申込み　当日までに電話で窪田空穂記念館へ

山と自然博物館から ☎0263-38-0012

昆虫の標本作り教室

日　時　9月14日(土) 午後2時～4時
会　場　山と自然博物館 2階講座室
対　象　小学生以上、一般
定　員　20名
参加料　大人300円、中学生以下無料
講　師　塩原明彦(山と自然博物館館長)
申込み　電話で山と自然博物館まで

鳴く虫観察会

日　時　9月21日(土) 午後6時30分～8時30分
※ただし雨天の場合は講義のみで、午後6時30分～7時30分
会　場　山と自然博物館2階講座室、アルプス公園
対　象　小学生以上の子どもと保護者
定　員　25名
参加料　大人300円、中学生以下無料
講　師　小林正明氏(前飯田女子短期大学教授)
申込み　電話で山と自然博物館まで

松本市歴史の里から ☎0263-47-4515

親子みすず細工体験

日　時　9月7日(土) 午後1時～3時
定　員　親子10組(小学生以上)
参加料　1,500円
申込み　前日までに電話で歴史の里まで

高機で裂き織り体験

日　時　①9月21日(土) ②10月24日(木)
[午前の部]午前10時～正午
[午後の部]午後1時～3時
定　員　午前・午後の部 各6名
参加料　1,000円
申込み　前日までに電話で歴史の里まで

ふくさの型染め体験

日　時　9月25日(水) 午後1時～4時
定　員　大人8名
参加料　2,000円
申込み　前日までに電話で歴史の里まで

企画展「工女宿宝来屋のくらし ～山里の明治・大正時代～」

明治～大正時代に工女が多数宿泊した宝来屋の歴史をふりかえります。

会　期　9月28日(土)～11月24日(日)
会　場　松本市歴史の里
松本市重要文化財 工女宿宝来屋
観覧料　大人個人400円(20名以上の団体300円)、
中学生以下無料

関連事業　講演会「野麦峠を越えた道」

日　時　10月12日(土) 午後1時30分～3時
会　場　松本市歴史の里 旧長野地方裁判所
松本支部庁舎書記室
聴講料　200円
講　師　胡桃沢勘司氏
(近畿大学文芸学部教授・文学博士)

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

公開講座『遺産の魅力』

名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センターと松本市教育委員会共催の市民向け公開講座です。松本・中信地域にある有形・無形の遺産が持つ魅力を考えます。

日　時　9月14日(土) 午後1時50分～4時40分
会　場　中央公民館(Mウイング) 大会議室3-2
※無料駐車場なし
対　象　高校生以上
定　員　80人
参加料　無料

特別講演「城下町・松本と民度」
[講師] 中川完治氏
(中川企画室代表・松本大学非常勤講師)

講義「『北内田村宗門改帳』にみる家族構成とその変化」
[講師] 溝口常俊氏
(名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センター客員教授)

講義「地理情報システム(GIS)を用いた地域史研究の可能性」
[講師] 奥貫圭一氏
(名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センター准教授)

申込み　9月5日(木)から名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センターへ。(Tel & Fax. 0263-36-1401)
ウェブサイト http://bbk.env.nagoya-u.ac.jp/

写真展「重要文化財馬場家住宅の四季」

四季折々の馬場家住宅の魅力を写真で紹介します。

会　期　9月7日(土)～10月6日(日)
会　場　馬場家住宅主屋
観覧料　通常観覧料

お茶席の会

日　時　9月8日(日) 午前10時～正午
会　場　馬場家住宅
観覧料　無料(通常観覧料のみ)
講　師　松風の会(表千家)

はた織り体験教室(裂布・ボロ織り)

日　時　9月28日(土)
①午前10時～正午　②午後1時～3時
会　場　馬場家住宅門長屋
定　員　各6名
観覧料　1,000円
講　師　染織の会
申込み　9月25日(水)までに電話で馬場家住宅まで

布ぞうり作り体験教室

日　時　9月28日(土) 午前10時～午後3時
会　場　馬場家住宅主屋
定　員　10名
観覧料　1,800円
申込み　9月25日(水)までに電話で馬場家住宅まで

お月見コンサート

日　時　9月29日(日) 午後6時30分～9時(予定)
会　場　馬場家住宅主屋
出　演　内田民謡舞踊サークル「藤穂流藤祐会」ほか
観覧料　無料
申込み　不要
問合せ　重要文化財馬場家住宅まで

あとがき

3分館が連携して「北杜夫と松本」展を開催中です。北杜夫さんは、作家であり、精神科医で、昆虫愛好家で、短歌も作られたりして、それはそれは多才な方です。そしてたくさんの方に愛された方です。北さんの才能と人望が感じられる展示をぜひ見に来てください。しかし、「天は二物を与えず」なんて言葉を聞きますが、たくさん「もっている」人もいるもんですね。(S. N)

あなたと博物館 No.188
発行年月日／平成25年9月1日　編集・発行／松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133 URL:http://www.matsu-haku.com
e-mail：mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp　印刷 川越印刷株式会社